

別記様式

		担当課	こども未来部こども応援課
会 議 の 名 称		令和８年度鴻巣市青少年問題協議会	
開 催 日		令和８年７月２９日（水）	
開 催 時 間		午前１０時００分 開会 ・ 午前１１時３０分 閉会	
開 催 場 所		鴻巣市役所会議室棟 １００１会議室	
議長(委員長・会長)氏 名		会長 野本昌宏	
出席者(委員)氏名 (出席者数)		野本昌宏（会長） 栗原依子 後藤康治 木野田博 加藤繁 高橋洋明 奥木美恵子 嶋村和枝 山本明伸 渡邊恵子 田中沙友里 竹内茂雄 (１２名)	
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)		吉田実 秋元俊一 深谷昌幸 矢島貴浩 林義典 (５名)	
事務局職員職氏名		こども未来部長 矢澤欣子 こども未来部副部長 矢澤潔 こども応援課長 沼上早苗 こども応援課主幹 石井智予 こども応援課主事 野中杏樹 こども応援課主事 清水智也	
傍聴の可否 (傍聴者数)		可 (０名)	
会 議 の 内 容	議事 (１) 令和７年度青少年健全育成関係事業報告及び支出内訳について (２) 令和８年度青少年健全育成関係事業計画及び予算内訳について 講話 「鴻巣市内（管内）における青少年の非行の現状」 講師 埼玉県鴻巣警察署 生活安全課 少年担当係長 安藤正純 氏		
	(決定事項など) ・会長及び副会長の選出 会長に野本委員、副会長に渡邊委員が選出された。 ・会議の公開について 事務局より「附属機関等の設置及び運営に関する基本方針」の説明を行い、承認された。 議事（１）について、資料に基づき事務局より説明。 (質疑) ・彩の国２１世紀郷土かるたの配付について、小学校でどのように活用されているのか。 →授業中や休み時間に活用されていると聞いている。		

	・かるた鴻巣大会の参加人数が減少した理由は。 →募集チラシを紙ではなく電子データで配布依頼したところ、各小学校により配信時期に差が出たためと考える。 コロナ前は学校の協力もあり参加者も多かったが、コロナ後は学校の働き方改革もあり、事務局でのみ募集を行っている。 ・こども大学こうのすの決算額が少ない理由は。 →例年、プレ課外講座は県外に1日かけて行っており、入館料に加えて高速料金や駐車料金がかかるが、令和7年度はさいたま市へ半日で行き、入館料・駐車料金・高速料金が全くかからなかったため。 また、各講義についても講師謝礼の支払いが発生しなかったため。 議事（2）について、資料に基づき事務局より説明。 （質疑） ・家族ふれあい魚釣り大会や、チャレンジスクールは、定員数を上回る申込みがあったことから、定員数の見直しが必要ではないか。 →家族ふれあい魚釣り大会は、徐々に定員を拡大しており、今後も申込状況や会場規模等を考慮しながら対応していく予定である。また、チャレンジスクールは、今年度の定員を20組から25組に拡大し、実施している。 ・チャレンジスクールは、保護者の引率なしで、こどもたちのみで実施することも検討すべきではないか。 →チャレンジスクールは、親子のふれあいの機会を提供することを目的の一つとしているため、保護者の引率なしで実施することは想定していない。 ・ジュニアリーダー資格認定研修の予算額が多いが、募集の基準などあるか。 →中学1年生を対象に行っている。 宿泊研修（計5日間）は講師分も含めた費用である。 ・チャレンジスクールはこの金額で足りるのか。 →バスは市の借り上げバスを使用しており、費用がかからないため、予算額については問題ないと認識している。 ・こどもまんなか宣言をした後、反映させている事業は。 →「こどものいけんばこ」を令和7年12月から実施している。 （意見） ・SNSの利用は有効だが、こどもたちに有害なものが多い。SNSの利用に関するアンケートを実施するなど非行防止に取り組んでいただきたい。
配布資料	令和8年度鴻巣市青少年問題協議会資料

注 会議の内容の欄は、主な意見や質疑内容を交えて概要を記入し、記入事項が多い場合は、別紙に記入するものとする。